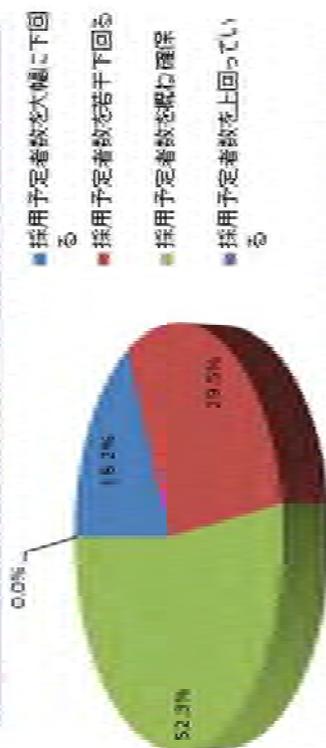




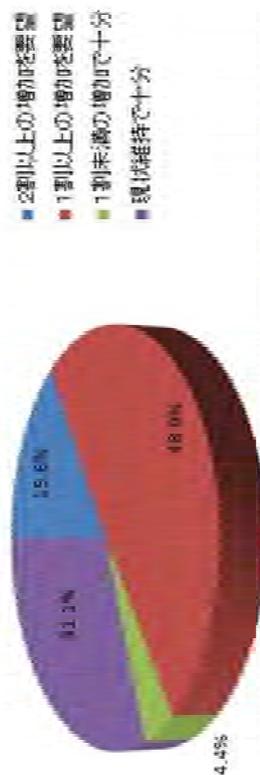
岩手県及び就職実績企業における理工系人材不足の現状と定員増への要望

県内企業の理工系人材の不足状況



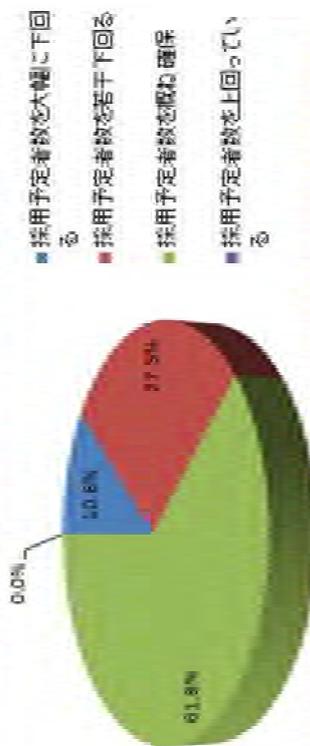
回答した県内企業(44社)の内、47.7%が理工学部卒業生の採用数が不足回答企業だけでも20社超を占めており、岩手大学理工学部への期前は大きい。

岩手県内企業からの入学定員への要望



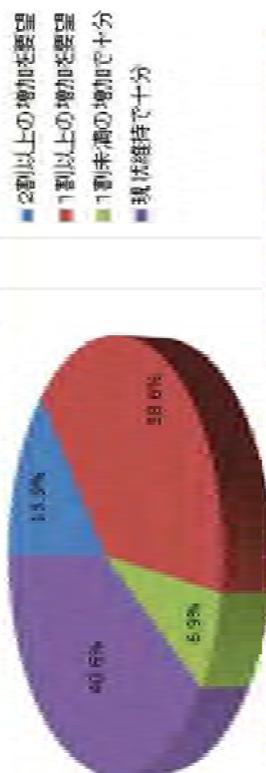
県内の非調査対象企業の65%が理工学部の1割以上の増加を要望(地域活性化のため: 85.8%, 自社人材への貢献: 日本経済のため: 44.5%)

全調査対象企業の理工系人材の不足状況



回答した企業(100社)の内、38.5%が理工学部卒業生の採用数が不足回答企業だけでも20社超を占めており、岩手大学理工学部への期前は大きい。

全調査対象企業からの入学定員への要望



全調査対象企業の65%が理工学部の1割以上の増加を要望(自社人材への貢献: 86.5%, 日本経済のため: 34.7%, 地域活性化のため: 34.5%)

企業へのアンケート調査票(1/3)

(学部)

アンケート調査票

岩手大学工学部では、平成28年4月に、伝統と実績のある工学部の強みをさらに強化・拡充するとともに、理学系学科・コースの新設をすることによって、「グローバル理工系人材育成」「イノベーション創出」「地域創生」を理念とした理工学部への組織改革を計画しています。このアンケートは、今後の詳細計画策定の参考にさせて頂くためのものであり、是非皆様のお考えをお聞かせ下さい。なお、アンケートで得られた情報や回答は、上記の目的のための統計資料としてのみ利用し、目的以外に利用することはありません。

貴社名 _____ (業種 _____)

※選択された回答の番号に○印をお願いします。

1. 上記に示した「工学部」から「理工学部」への組織改革の方向性は、評価できるもの
でしょうか(1つ選択)。
①大いに評価できる ②おおよそ評価できる ③評価できる
④あまり評価できない ⑤評価できない ⑥わからない、無回答
2. 「理工学部」としての卒業生を採用する可能性についてお尋ねします(1つ選択)。
①積極的に採用したい ②できれば採用したい ③採用する可能性はある
④採用しない ⑤わからない、無回答
3. 岩手大学の「理工学部」では、新たに数学、自然科学分野を主として学修するとともにその応用分野や工学分野の知識も有する人材の育成を考えておりますが、その卒業生(学位は理学)を採用する可能性についてお尋ねします(1つ選択)。
①積極的に採用したい ②できれば採用したい ③採用する可能性はある
④採用しない ⑤わからない、無回答
4. 2で①, ②, ③を選択された企業にお尋ねします。以下のどのコースを学んだ学生を採用したいと考えますか(複数選択可)。
①化学コース ②生命コース ③数理・物理コース ④マテリアルコース
⑤電気電子通信コース ⑥知能・メディア情報コース ⑦機械科学コース
⑧社会基盤・環境コース ⑨全コース
5. 平成28年春以降における貴社の理工系人材の採用動向についてお尋ねします(1つ選択)。
①採用は増える傾向にある ②現在と同程度と予想 ③採用する可能性はある
④採用は減る傾向にある ⑤わからない、無回答
6. 産業活性化や地域振興等のために、岩手大学の理工系学部の更なる充実化を期待されますか(1つ選択)。
①とても期待する ②期待する ③ある程度期待する
④どちらともいえない ⑤期待しない ⑥わからない、無回答
7. その他、ご意見があればお書きください。

企業へのアンケート調査票(2/3)

アンケート調査票送信FAX番号:019-621-6314

(学部)

アンケート調査票(追加)

昨年は、別添のとおりアンケート調査にご協力いただき誠にありがとうございました。
前回ご協力いただいたアンケート調査後、下記のお伺いしたい項目が追加となりましたので、恐れ入りますが、今回の大学院アンケート調査とあわせてこちらについてもご回答をお願いいたします。

貴社名 _____ (業種 _____)

1. 岩手大学の「理工学部」では、新たに数学、自然科学分野を主として学修するとともにその応用分野や工学分野の知識を有する人材の育成も考えておりますが、次の卒業生を採用する可能性についてお尋ねします。それぞれにご回答願います。

1-1. 学位が「理学」の修了生について(1つ選択)

- ①積極的に採用したい ②できれば採用したい ③採用する可能性はある
④採用したくない ⑤わからない、無回答

1-2. 1-1で①、②、③を選択された企業にお尋ねします。何人程度の採用が見込まれますか(現時点で想定される人数の記入で構いません)。

_____ 人

1-3. 学位が「理工学」の修了生について(1つ選択)

- ①積極的に採用したい ②できれば採用したい ③採用する可能性はある
④採用したくない ⑤わからない、無回答

1-4. 1-3で①、②、③を選択された企業にお尋ねします。何人程度の採用が見込まれますか(現時点で想定される人数の記入で構いません)。

_____ 人

2. 採用現況についてお尋ねします。

過去数年間における理工系学部卒業生の採用実績数は、(1つ選択)

- ①採用予定数に対して、大幅に下回っている
→ 差し支えなければ不足数(年平均)をご記入下さい _____ 人
②採用予定数に対して、若干下回っている
→ 差し支えなければ不足数(年平均)をご記入下さい _____ 人
③概ね採用予定数を確保できている
④採用予定数を上回っている

3. 改組後の理工学部の学生定員(現行は400名)についてお尋ねします。

新学部の学生定員は、(1つ選択)

- ①2割以上の増加を要望する ②1割以上の増加を要望する
③1割未満の増加で十分である ④現状維持程度で十分である

4. 3で①、②を選択された企業にお尋ねします。

定員増の理由は、次のどれに該当しますか(複数選択可)。

- ①自社にとり理工系人材の確保が必要だから
②日本経済にとり理工系人材を増やすことは必要だから
③地域の活性化のためより多くの理工系人材が必要だから
④地域の大学進学率を確保する上で必要だから
⑤その他(理由 _____)

企業へのアンケート調査票 (3/3)

(学部)

アンケート調査票

岩手大学工学部では、平成28年4月に、理工学系学科・コースの新設を含めた理工学部への組織改革を計画しています(添付の学科構成の移行図をご参照下さい)。このアンケートでは、新学部で人材育成像をより適切なものにしていくために、卒業生を採用する可能性がある企業関係者や研究機関関係者の皆様のお考えをお聞かせいただきたいと思っております。短い期間での調査となりますが、ご協力の程よろしく申し上げます。なお、アンケートで得られた情報や回答は、上記の目的のための統計資料としてのみ利用し、目的以外に利用することはありません。

貴社名

(業種)

1. 現行の「工学部」から「理工学部」への組織改革では、従前の工学分野の人材育成能力強化に加えて、イノベーション創出、研究開発型の人材養成が岩手県をはじめ東北地方に必要であるとの考えから、理学面の教育内容を拡充することで理学的基礎と工学的課題解決能力を身につけた技術者、研究者(学位は「理工学」)育成力の強化を計画しております。このような人材育成に関する構想は、(1つ選択)。

- ①大いに評価できる ②おおよそ評価できる ③評価できる
④あまり評価できない ⑤評価できない ⑥わからない、無回答

2. 1の設問に対して①～③にお答え頂いた方に、その理由をお尋ねします(複数選択)。

- ①研究開発型人材としての理工系人材が自社に必要なだから
②岩手県をはじめ、東北地方の今後の活性化に研究開発型人材が必要なだから
③国立大学における理工学系学部として当然備えているべき機能だから
④その他()

3. 1の設問に対して④、⑤にお答え頂いた方、その理由をお尋ねします(複数選択)。

- ①工学の学位で十分だから
②業種的に必要としないから
③理工学と工学の違いがよく分からないから
④岩手大学には必要であるとは感じられないから
⑤その他()

4. その他、理工学部での人材育成に対するご意見があればお書きください。

アンケートへのご協力をお願いいたします！

学部改組（構想中）のお知らせ

※学部・学科・コース名および構想内容は、予定であり変更する場合があります。

国立大学法人 岩手大学

平成28年4月 工学部 から 理工学部 へ改組予定

－岩手大学工学部は、大きく生まれ変わる予定です。－

学部改組の背景

iPS細胞やヒッグス粒子の存在証明といった理学分野での革新的発見、放射光・加速器科学、生命工学、ロボット研究、3Dプリンター、宇宙開発など理工学分野が飛躍的に発展するなか、理数系の基礎学力を踏まえた創造性豊かな理工系人材の育成が強く求められています。岩手大学工学部は、75年を超える経験と実績を最大限に生かしつつ、特色にあふれ競争力のある「理工学部」に改組することで、持続可能で安全安心な社会実現のためのグローバル理工系人材の育成や新たな産業の創成に貢献します。

学部改組のポイント

- ✓ 伝統と実績のある工学分野に理学分野を加え、基礎から応用までの教育・研究機能を強化・充実
- ✓ 専門の深化と分野横断型教育を両立させる新たな学科構成

めざす人材像

- 幅広い理工学的基礎能力と倫理性、国際性を兼ね備えた人材
- 理工学的課題探求心、理解力と世界レベルの専門的能力を持つ人材
- 豊かな創造性と主体性、協調性を発揮し、アイデアを具現化できる人材
- 地域社会や国際社会と積極的に交流できる人材



工学と理学の融合により、特色ある教育研究を展開。

化学・生命理工学科

学科の特徴

理学の主幹である化学・生物分野の基礎を身に付け、化学・生命現象に関する専門的知識と工学的な応用展開について学びます。

【取得学位：学士（理学）または学士（工学）】

・化学コース

現代化学の基礎知識と応用力を学び、さらに、人と環境に優しい新しい化学技術の研究開発を通して、機能性物質の創製、資源・エネルギーの有効利用および地球環境の保全に貢献します。

・生命コース

物理、化学等の理工学分野の基本的側面と医学・工学等の応用的側面を総合的に学び、生命現象の基本原理の探求に取り組み、医薬品や医療機器開発などの医療技術発展に貢献します。

物理・材料理工学科

学科の特徴

自然科学の基礎となる物理・数学を身に付け、様々な物質・材料（マテリアル）に関する専門的知識と工学的な応用展開について学びます。

【取得学位：学士（理学）または学士（工学）】

・数理・物理コース

自然界の法則を探究する現代物理学と科学の基礎である数学を学び、関連する理工学分野の発展に貢献します。

・マテリアルコース

新機能材料、金属生産プロセス、材料リサイクル技術の開発を目指し、材料工学の専門的知識と工学的な応用技術を学びます。

システム創成理工学科

学科の特徴

工学の基礎となる数学・物理・化学を身に付け、生産・開発・製造・設計・情報・通信・社会・環境等のシステムの構築についての工学的専門知識と技術を学びます。

【取得学位：学士（工学）】

・電気電子通信コース

電気・電子・通信に関する基礎的な知識や応用力を備え、現代産業社会を支える電気・電子・通信分野で活躍できる技術者の育成をめざし、通信・電子システム、電子デバイス、電気エネルギーの各分野について学びます。

・知能・メディア情報コース

コンピュータやネットワークに関する基礎的な知識とともに、工業製品や社会の知能化に貢献する知能情報工学分野と、社会や文化の発展に貢献するメディア情報工学分野の専門的知識と技術を学びます。

・機械科学コース

社会が必要とする最先端の機械システムの開発・設計・製造の分野で技術者として活躍できるように、機械工学に関する基礎学力等を身に付け、航空宇宙、バイオ・ロボティクス、システムデザインの各分野で実践能力を養います。

・社会基盤・環境コース

「安全・安心な社会の構築」と「人と環境にやさしい持続可能な社会の創出」を担う技術者・研究者の育成をめざし、環境科学、建設工学、防災工学の各分野について学びます。

地域と語る “いわて協創人材育成+地元定着”プロジェクト

- 全学共通教育と全学部(人文社会科学部・工学部・農学部)の専門教育の中に地域に関する科目を体系的に配置
→ 被災地での学修を必修化、岩手の歴史・文化・特色等を学ぶ科目の設定、地域課題をテーマとした課題解決型授業の導入、地域企業・自治体へのインターンシップの拡充 等
- 達成目標(教育に関する取組の詳細)・・・平成29年度 県内就職率 39.9%(直近4年間平均34%)

